

## 言葉の力

校長 稲葉 守朗

毎朝の仕事始めは、通学する子供たちとのあいさつはもちろんのこと、西校舎の歩道に並んだプランターの花たちへの声かけもその一つです。「おはよう。今日も元気に咲いてるね。ありがとう。」など、感謝の言葉をかけます。健気に咲いている花たちを見ていると、心が癒されるとともに、「今日も一日がんばるぞ」という勇気が湧いてきます。

6月には、本学園の特色ある教育活動の一つである「花いっぱい運動」が、開かれた学校づくり協議会の協力を得ながら行われました。今回は、3年生から7年生が担当し、プランターや花壇に、ペコニアやマリーゴールドなど5種類の花苗を植えました。東西校舎の周りや敷地内には、色とりどりの花が元気よく咲いています。

植物の生育に不可欠なものは、4つあります。それは、水・光・空気・ミネラルです。しかし、これ以外にも、生育に大きな影響を及ぼすものがあるようです。植物の生育について、スウェーデンの家具量販店 IKEA は、アラブ首長国連邦の学校で植物に褒める言葉と罵（ののし）る言葉をかけるテストを行いました。そして、植物に対して良い言葉がけを繰り返した場合と、それとは反対に悪い言葉かけを繰り返した場合に、生育が異なることを証明したのです。この実験では、数人の児童が褒める言葉と罵る言葉を録音し、継続的にそれぞれ2つの植物に聞かせ、実験を始めてから30日の間に、その2つの植物がどのように変化するかを観察しました。植物を褒める言葉は、「あなたが好き」、「あなたがこの世界を美しくさせた」です。また、罵る言葉は、「あなたは駄目に見える」、「なんでまだ生きているの」と設定しました。植物に対しての言葉かけは両極端なものですが、置く場所・水やり・太陽光・肥料などの栽培条件は全く同じにしました。1か月が経過すると、2つの植物の外観に明らかな違いが表れてきました。褒め言葉をかけられた植物は、葉が青々として元気よく成長しました。一方、罵る言葉をかけられた植物は、元気がなく、葉が垂れ下がり、一部は枯れてしまいました。この実験結果からは、科学的な根拠は分かりませんが、日常の言葉かけにより植物の生育に影響があることが分かりました。

言葉かけが、植物の生育に影響を及ぼすのだから、豊かな感性が備わった人への影響は、さらに大きいと考えられます。子供の實力を引き出すコーチングなどの研究をしている国際武道大学の前川直也教授によると、「能力的なことを褒める」よりも、「努力や事実を認める」ことの方が効果的なのだそうです。つまり、「速いね」「上手いね」「強いね」という能力を褒める言葉よりも、「休まず練習をがんばっているね」「先週より上手く出来るようになったね」「前よりも記録が伸びているね」という、努力の過程を認める言葉の方が、やる気を起こさせるのだそうです。その子供なりに努力したことや、改善したことはあるはずです。子供のやる気を起こし伸ばすためにも、日頃の様子をしっかり観察し、些細なことであってもそれを認め、子供にしっかり伝えていきたいです。日頃の授業や特別活動、また、部活動での様子を見ていると、教員の言葉かけが子供たちの態度に大きく影響していることを実感します。子供たちの自己実現を確実に達成させるためにも、日頃の言葉かけを大切にしていきたいと思います。